Manus 2.0 vs. The Big 3: エージェントAIの企業導入戦略

2026年9月の市場大変動と、ハイプの裏に潜む真のリスクと価値

CIO・CTOおよび全社AI戦略担当者向けブリーフィング資料

2026年10月作成

Gemini Notebook



状況 (Situation)

2026年9月、AI市場は「チャット」から「自律型エージェント」へ完全に移行。Manus 2.0の発表と同時に、OpenAI、Anthropic、Googleが一斉に「常時稼働エージェント」を投入。



課題 (Complication)

Manusは独自の強力な制作環境を持つ一方、基盤モデルを持たない「アプリケーション層」に過ぎず、激しい規制リスク（Meta買収破談）と新たなセキュリティ課題（自律型ID）を抱えている。大手3社の猛追により、機能的優位性も急速にコモディティ化しつつある。



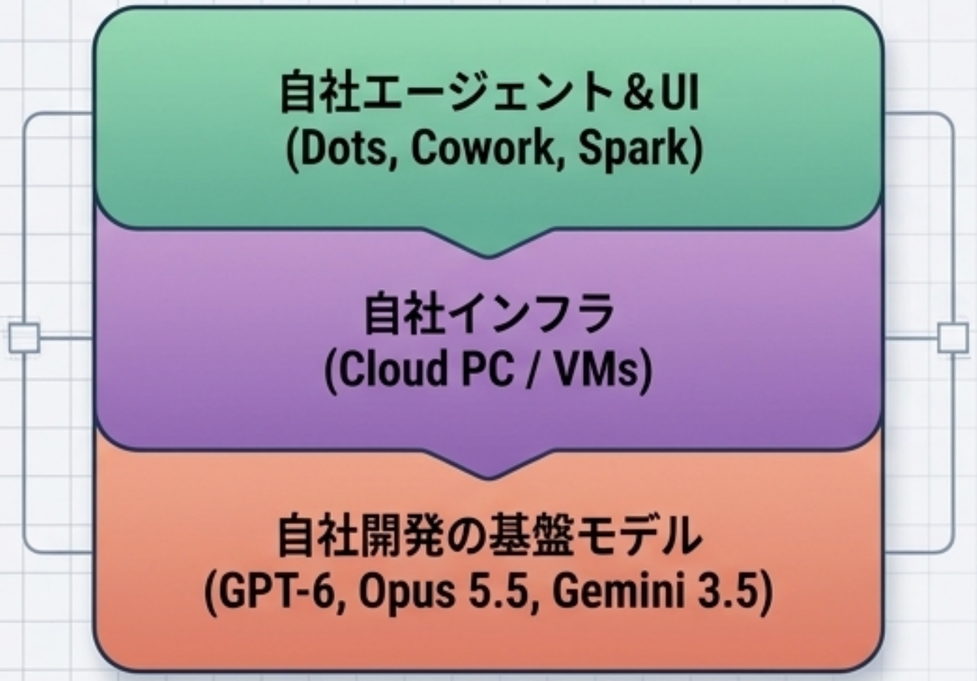
解決策 (Resolution)

企業は「二刀流（Bifurcated）」の導入戦略が必須。基幹業務と機密データは大手3社のエンタープライズ環境で守り、Manusはクリエイティブ・リサーチ用の独立したサンドボックス環境として限定展開する。

Gemini Notebook

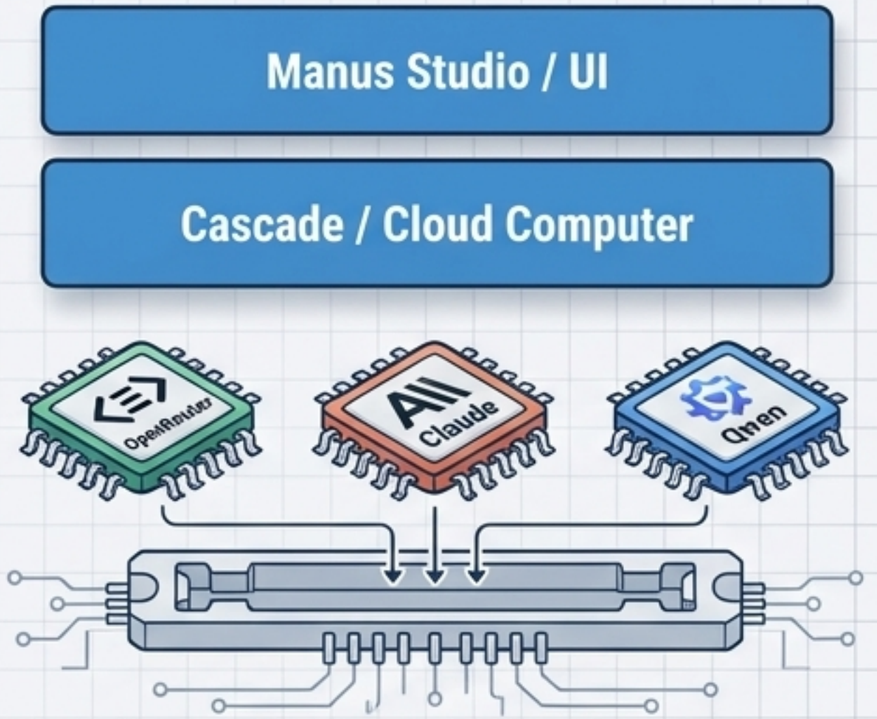
アーキテクチャの根本的差異

The Big 3



垂直統合型（性能改善が全層に即座に反映）

Manus 2.0



モデル非依存型（外部推論プロバイダに依存）

【アーキテクチャの転換】ManusはAIモデル自体の競争から降り、「どのモデルの上でも動く最良のハーネス（Manus Flex）」を売る戦略へとシフトした。

Gemini Notebook

Manusの地政学リスクと買収破談の軌跡

2025年12月

Metaによる買収発表
（推定20億ドル超）



2026年4月

中国・NDRCが外商投資安全審査に基づき取引撤回を命令
（越境AI取引の公的阻止）

2026年5-6月

業務分離とデータ共有停止。Metaが関係解消を正式発表

2026年8月

規制対応のため、特定法域のユーザーデータを強制削除

2026年9月

独立ラボとして再開
（資本関係の全体像は依然不透明）

2026年9月

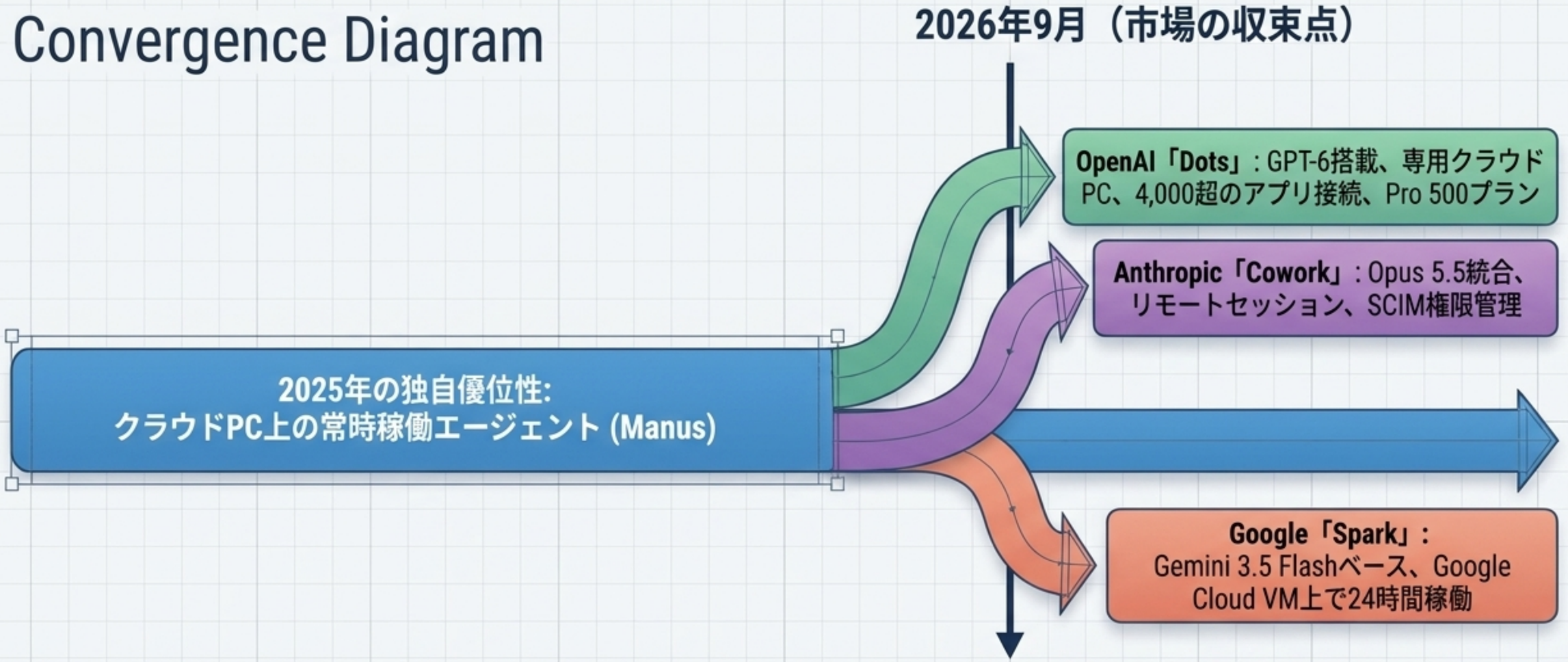
独立ラボとして再開
（資本関係の全体像は依然不透明）

【結論】

発表時、Manusはすでに「Meta傘下」ではない。背後に潜む地政学リスクとデータ継続性の不確実性は、基幹ツールとしての全社導入への最大の障壁である。

Gemini Notebook

Convergence Diagram

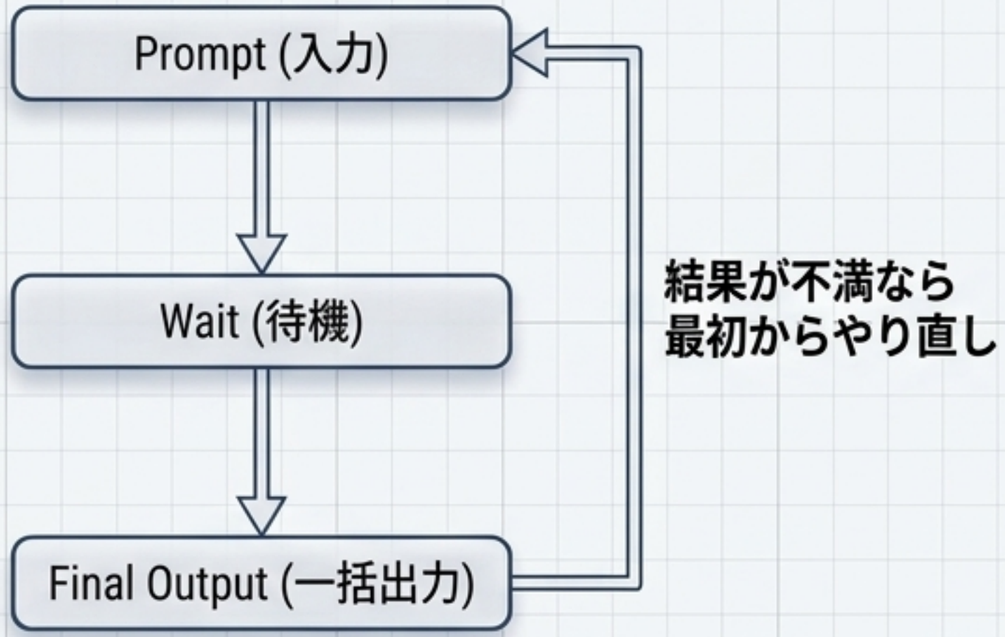


2025年にManusが独占していた「クラウドPC」という強みは、2026年9月のわずか1ヶ月間で、大手3社の標準機能（コモディティ）へと変貌した。

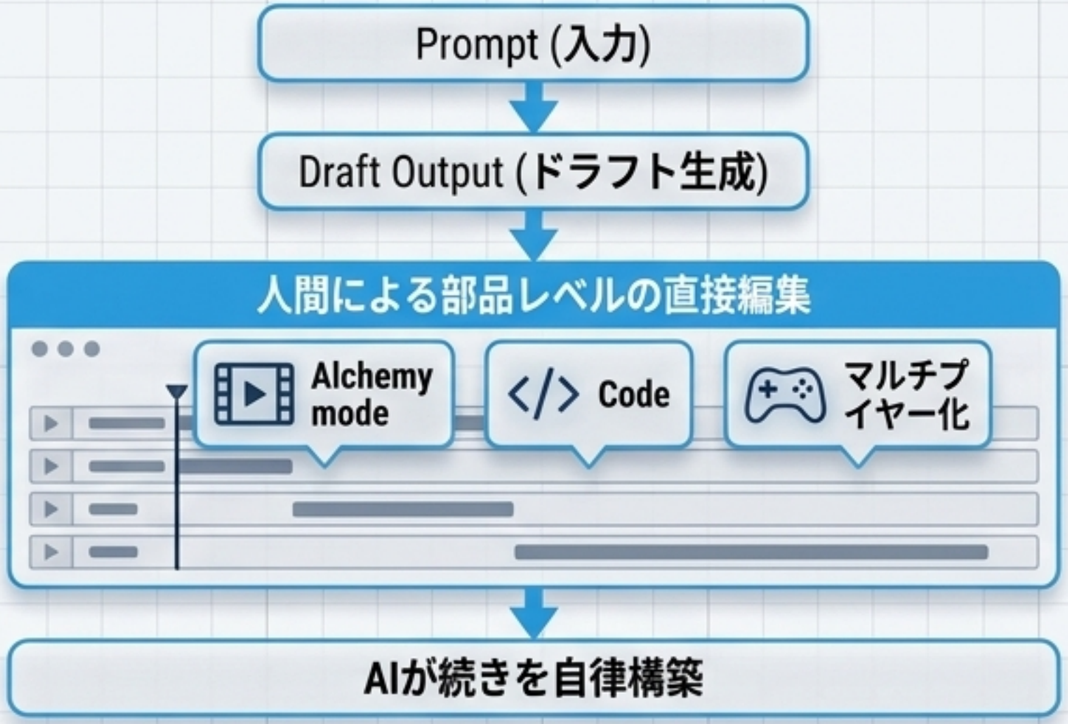
Gemini Notebook

Manus Studio: The True Value of a Co-Creation Studio

従来型のAIワークフロー



Manus Studioの真価（共創型スタジオ）



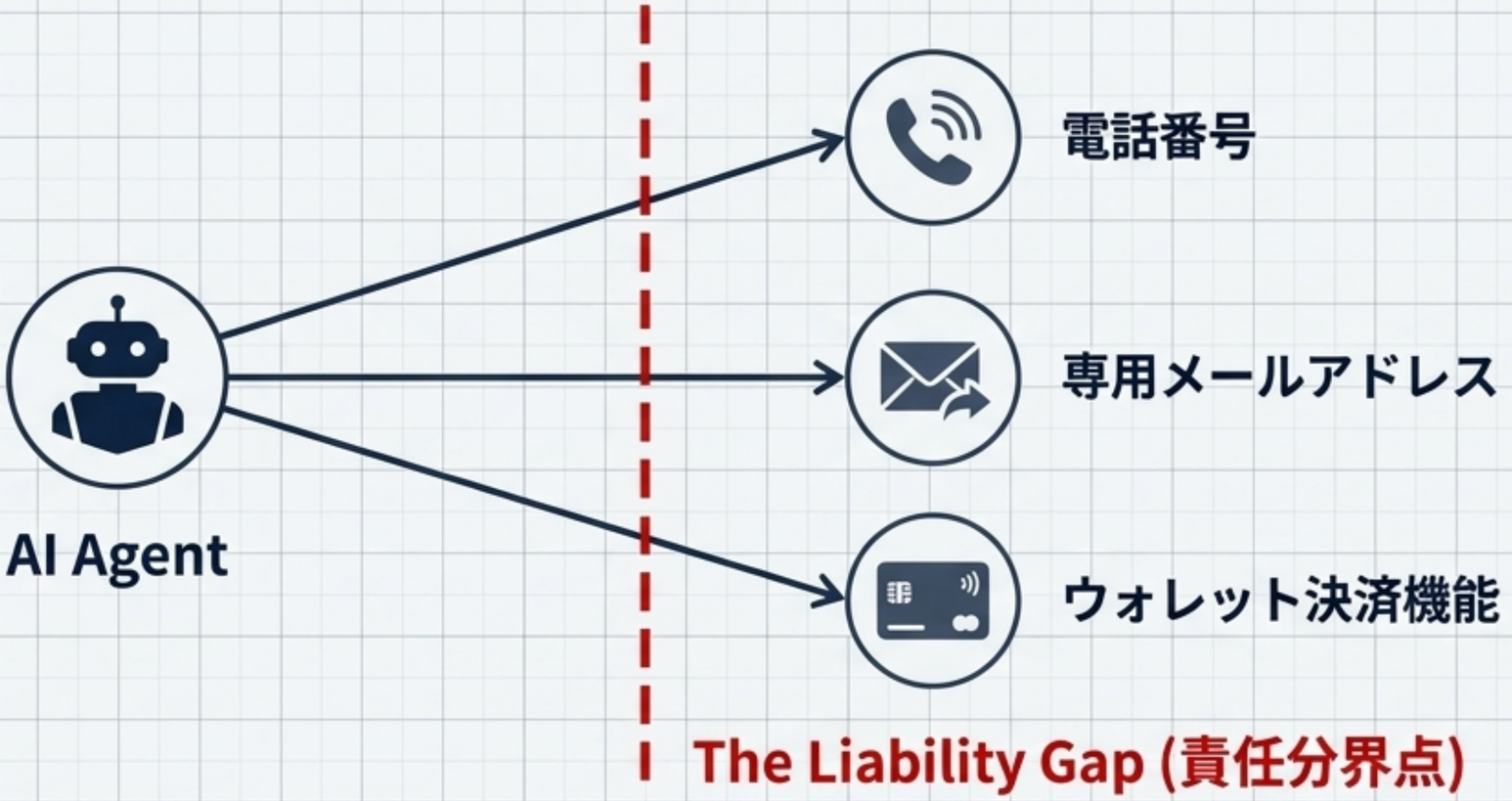
Manusの真の差別化要因は「最初の結果が出た後」の工程にある。生成物をタイムライン上の部品として人が直接編集し、続きをAIに任せる体験こそが最大の武器。

Gemini Notebook

Diagnostic Matrix: AI Co-Creation Platforms Comparison

	Manus 2.0	OpenAI Dots	Anthropic Cowork	Google Spark
本質・モデル	アプリ層 (Flexで外部モデル)	垂直統合 (GPT-6系)	垂直統合 (Opus 5.5等)	垂直統合 (Gemini 3.5 Flash)
実行環境	購入式Cloud Computer / 遠隔操作	専用クラウドPC / ローカル	デスクトップサンドボックス / VM	Google Cloud VM
突出した機能	統合Studioでの動画画・ゲーム直接編集	4000超のプラグイン先回り調査	サブエージェントの並列起動	Googleサービスとの深い統合
法人ガバナンス	SOC 2（要検証）	Enterprise連携 / リージョン制限	SCIM / ロール / 支支出上限指定	CMEK / データ所在地指定
導入リスク評価	⚠ 資本不透明・データ削除前例	⚠ Pro版は欧州・英国対象外	✅ 企業向け堅牢	✅ 企業向け堅牢

Gemini Notebook



機能の現状 (Cue)

Manusの個人エージェント「Cue」は、飲食店でのQR注文や順番取りなど、物理世界に干渉するための自律的な「身元」と「決済手段」を標準で保有している。

エンタープライズ視点でのリスク

誤送信、誤決済、なりすましによる損害が発生した場合、法的な責任は誰が負うのか？公開検証が未完了であり、エンタープライズ環境での利用には致命的なガバナンスの空白が存在する。

Gemini Notebook

Recommended Strategy: AI Platform Placement & Data Governance Matrix



【推奨戦略】企業契約と強固なデータ統制（SCIM/VPC）が整った大手3社を基幹システムとし、Manusは特有のStudio機能が活きる非機密のクリエイティブ領域に限定して運用すべきである。

Gemini Notebook

結論：エージェント導入の基本原則

1

モデルと製品の分離を認識せよ

Manusは強力なアプリケーションだが、基盤モデルの進化スピードに依存する。Big 3の垂直統合型との使い分けが必須。

2

「機能」ではなく「ガバナンス」で選べ

常時稼働エージェントはすでにコモディティ。勝負の分かれ目は、自律実行時の責任分界とデータ主権（SOC2/ISO/法域）の担保にある。

3

適材適所のアーキテクチャ構築

唯一の勝者を探すのではなく、機密性を軸に「Big 3の堅牢な基盤」の上に「Manusのクリエイティブ環境」を配置するモジュラー型のAI戦略を設計せよ。

// SYSTEM BRIEFING COMPLETE

Gemini Notebook